ワイルドブレスト
-英傑たちの宴-

毎日毎日、あたしの乳ばかりイジって…
そんなにおっぱいが好きかい！
ずっとこの爆乳に目を付けてた？
何言ってるんだい！

華奢な身体に似合わないチンポだねぇ
あたしの自慢の胸から
はみ出してしまってるじゃないか！

X
Y A いじる
B

リン〇、ウルボ〇の爆乳にハマる
英傑の一人、ゲルド族のウルボ〇
その類まれなる美貌もさることながら恐るべき爆乳の持ち主だった。
そしてハイラル一のおっぱい星人はそれを見ているだけでは我慢できなかった。

X
Y
A
B
尻をたたく
ちょっとリン○！
御ひい様の寝てる横でなんて…ああん！
どうして御ひい様じゃなくて、
あたしに手を出すんだい！
んんっ！尻まで叩かれて、
これじゃゲルドの長の面目がないよ！

ううっ！ハイリア人の精液中にたくさん出てる…
何？明日も来るって…ゲルド滞在中にあたしを孕ませる気なのかい？
リン〇、ウルボ〇を毎晩夜這いする
最初は勝気で男勝りに見えた彼女だが、ゲルド族の習慣のせいか、
意外とウブであり、そこをリン〇に付け込まれてしまう。
毎晩ゼル〇の警護という名目で城の寝室に侵入しては
その豊満な肉体を夜明けまで楽しみ続けた。

X
Y
A
B
我慢する
もう、またおチンポ怪我しちゃったの？
こんなに腫れちゃって…
いつものことだもんね
いいよ。あたしが治してあげる。

んん！！熱いザーメンいっぱい出てる！
いくら幼馴染だからって遠慮がないのね
…他の子にこんなこと
したらダメだよ？
リン〇、ミフ〇ーに毎日フェラされていた
最初は子供の遊びのように始まったおちんちんのお医者さん
それもリン〇が成長してからは、いやらしい遊びへと変わっていった。
押しに弱い幼馴染に頼み込んでは、ゾーラ族の独特の口内を
楽しみながら剣の腕を磨いたリン〇であった。

どう？私のスマタ
ぬるぬるで気持ちいいでしょ？
X
Y
A
B
こする
ゾーラ族でも、ハイリア人と
交わることが許されなくても
これくらいはいいよね？

君のザーメン、いつにも増してたくさん
イヤだ…肌で吸収しちゃってる。
もう…イカ臭くなっちゃったらどうするの？
ううん、君の臭いなら、
嫌じゃないよ。
リン〇、ゾーラの股間にハマる
ゾーラ族特融の湿り気のある肌と、発情した時に出る粘液がからまり
それは極上の感触をチンポへともたらしていた。
たとえ異種姦が禁忌とされていても、荒ぶる性への衝動を
若き日のリン〇はスマタへとぶつけていた。
まあ結局のちにミフ〇ーとヤってしまうのだが。

…わ、たしにも才能が…あれば
X
Y
A
B
発射

リン〇、姫のおでこでヌく
各地を二人で巡る旅の途中の夜だった。
なにかとプリプリとリン〇に怒っては、その後自分には才能がないと自己嫌悪に陥るゼル〇
お前は才能よりもその太眉とデコをなんとかしろ！そう思いながら姫に対して怒りが募り、
なんとかフラストレーションを毎晩毎晩彼女の額に射精をし続けた。

X
Y
A
B
つつく
リン〇！おやめなさい！
あなた何をしているか…
ああんっ！わかってるの！
いつもお尻で誘惑してくるからって…
そ、そんなことしてません！

リン○、ついにゼル○を襲う
プリプリ怒られながらプリプリと尻を揺らされる日々にムラムラと怒りを募らせるリン○
村に立ち寄っては女を買って発散していたが、立ち寄る宿のない旅路に性欲が臨界点を突破
無防備で油断しきっていた姫を剥いたが、最後の理性が彼のチンポをアナルへと導いた。

ルージ〇様、何してるのー？
ハイリアのヴァーイって
お股に何かついてるの？シッポ？
んん…ちゅぶ！ジュル！
え？あ、これはその…
そ、そう…
シッポの毛づくろいだ！
X
Y
A
B
押し込む

リン〇、男子禁制の街においてルージ〇でヌきまくる
ゲルドの街に滞在し女性としての日々を送るも、男としてのサガはなりを潜めるばかりか
周囲に漂う無防備な女たちの色香にやられ、強くなるばかりだった。
神獣の一件で自分が男だとわかっている女王に頼む他ないと思ったリン〇は
ルージ〇を性欲処理対象に決めては、ゲルド族のウブな子たちと遊ぶ日々を送っていた。

ルージ〇様この街は男は禁制なはず…
な、何をやっておられるのですか？この国の女王ともあろう方がヴォーイとその…
な、なにを言っておる？こやつはヴァーイじゃ！
な、なにってただのスキンシップだ！
X
Y
A
B
乗せる

リン〇、ルージ〇の玉座をチンポの上にする
まだ幼いルージ〇に性技を教え込むばかりか、自分好みの女に開発していくリン〇。
フェラを覚えさせ、まだ幼い身体はすでに性の喜びを十二分に知っていた。
それだけでは収まらないリン〇の征服欲は、ゲルドの街の政治にまで及び、
そこには文字通り、真の玉座に座り女王を手籠めにするといた光景が広がっていた。

リ、リン〇様ど、どうでしょうか？
夜伽の大役、十分に
務まっているでしょうか？

（ハァ…これが殿方のおチンポ
スゴイ…雄々しい）

X
Y A 我慢する
B

リン〇、カカリコ村で夜伽を受ける

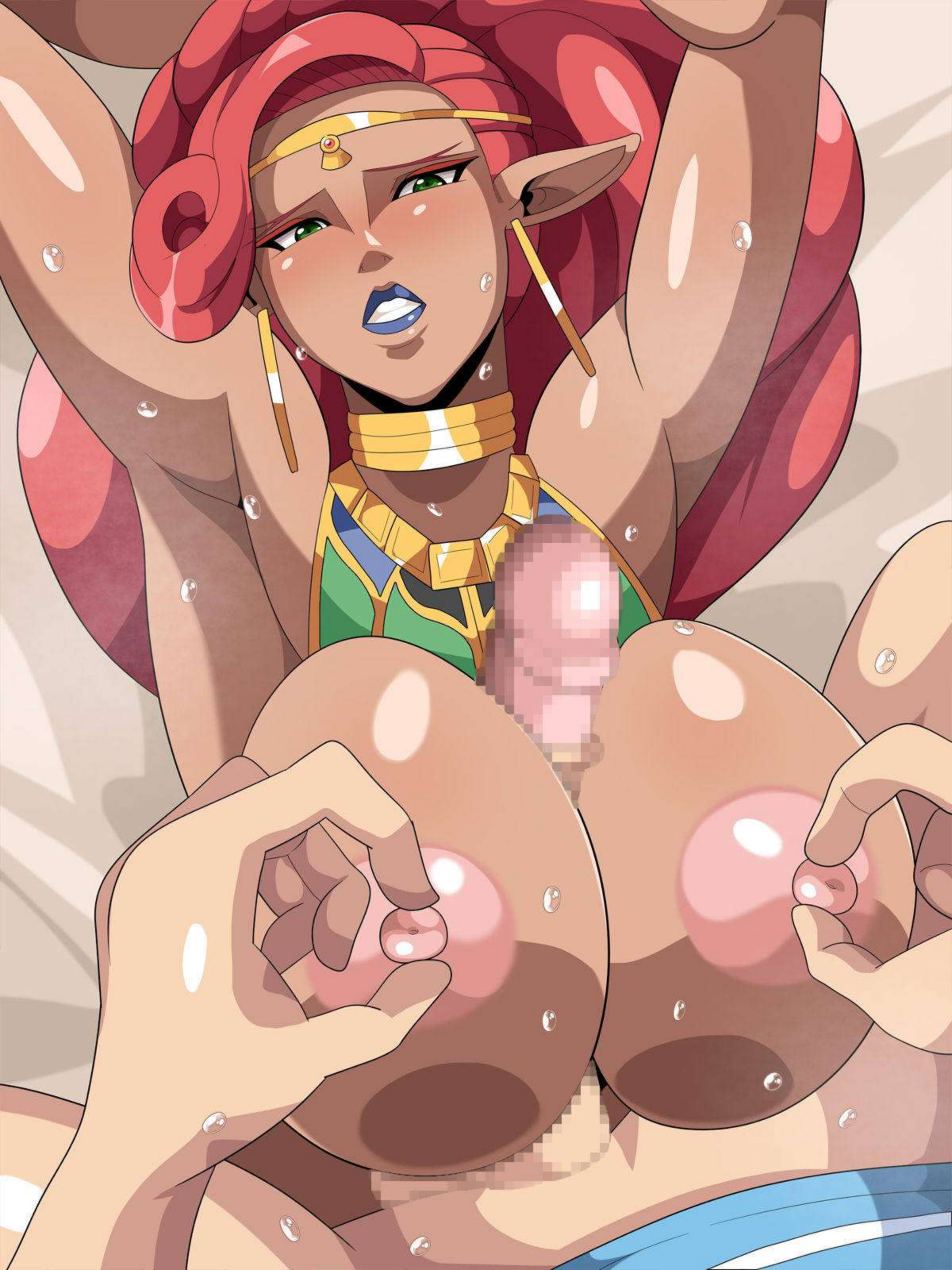
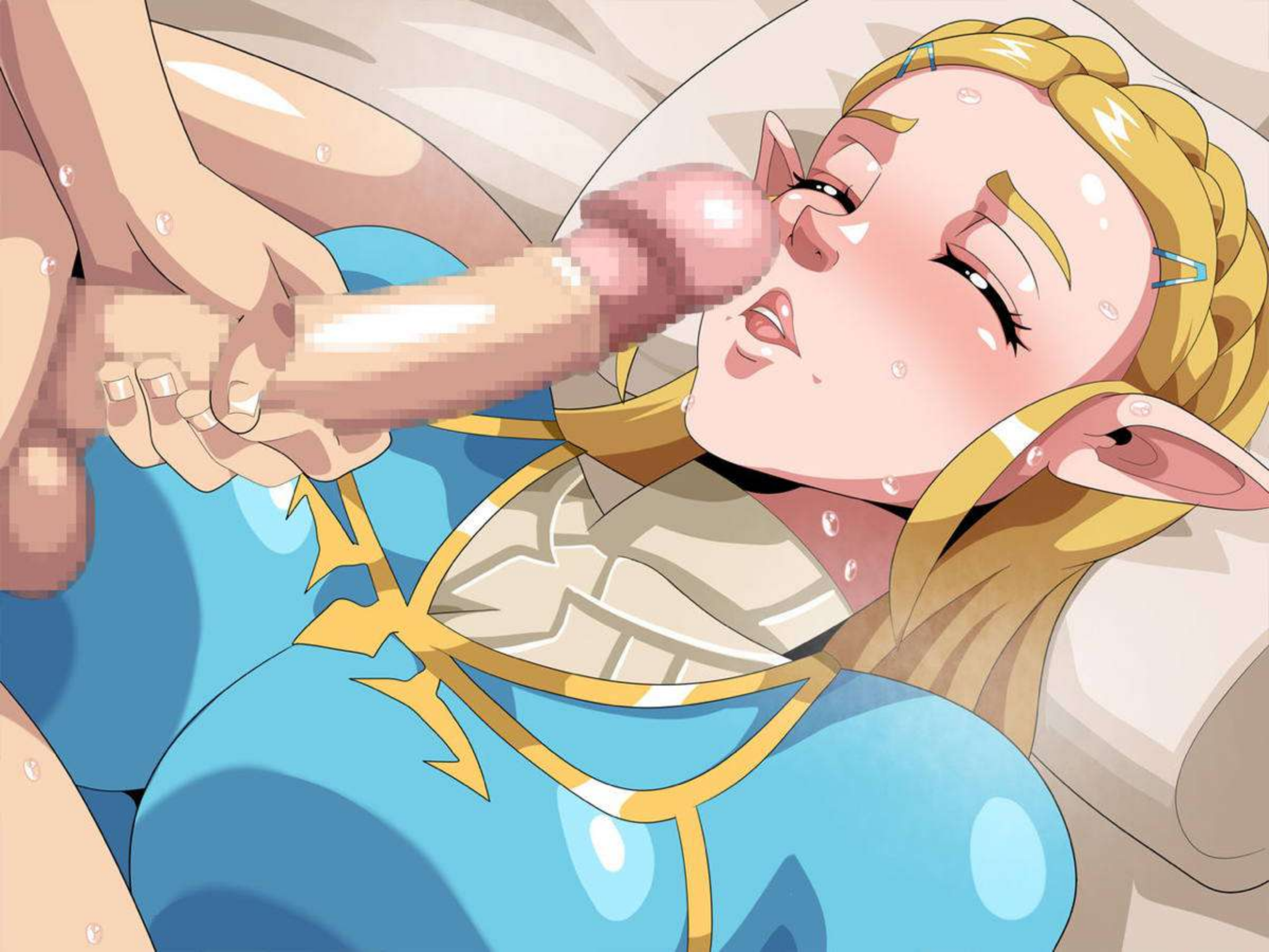
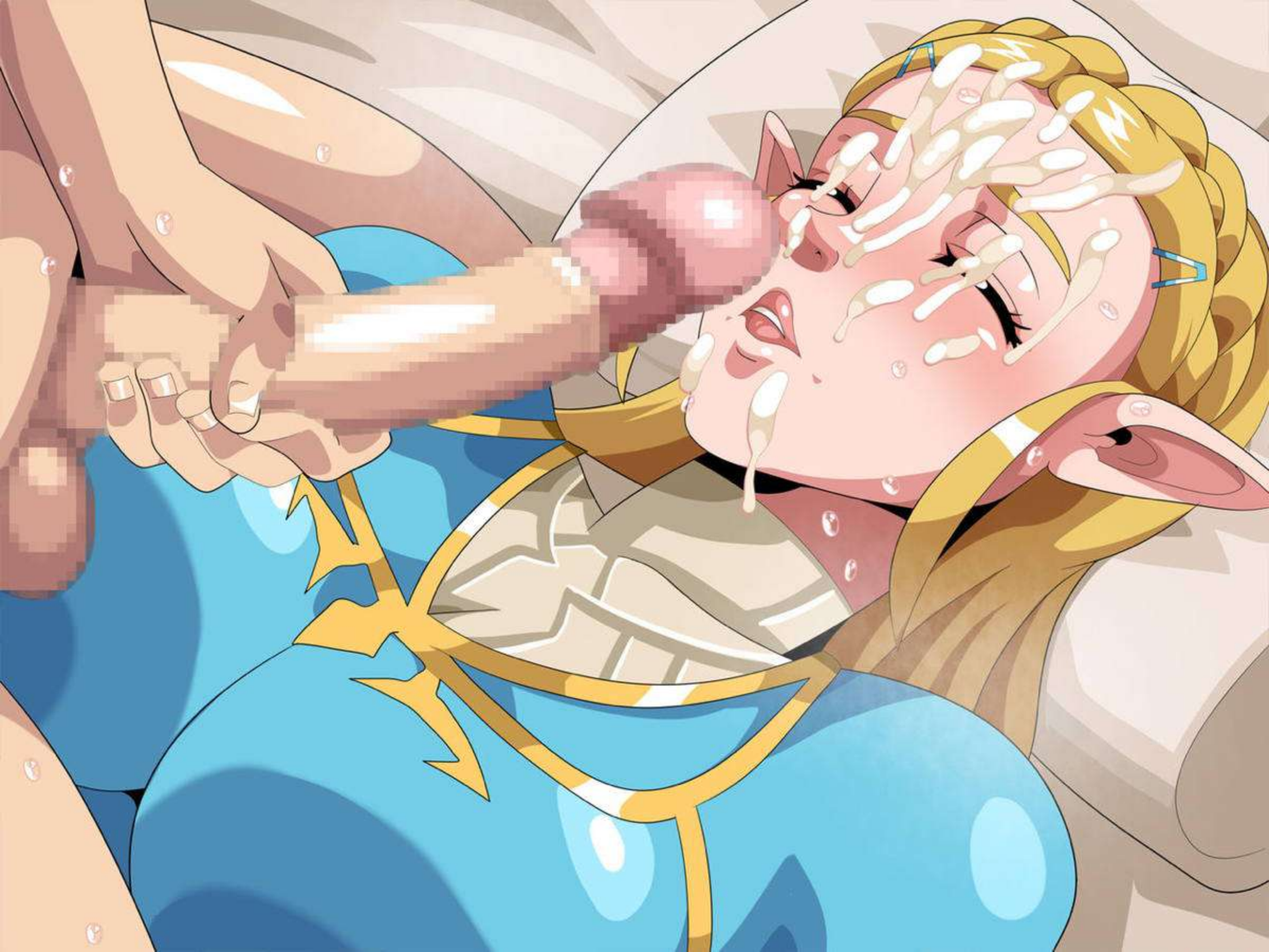
果てしない旅路の中、再度訪問したカカリコ村。ここにはまだ夜伽の文化が残っていた。
夜伽の相手はなんと村の長の娘、パー〇。立候補してのことだという。
まだウブでありながらも性に異常な関心があると見抜いたリン〇はあえて彼女に
すべてを任せて、つかの間の休息を楽しんだ。

リ、リン〇様！
お戯れを！
アザを見るだけという、
約束では…はあん！
X
Y
A
B
犯す

リン〇、パー〇を夜這いする
お尻にパパイヤの種のようなアザがあるゆえにそう名づけられました。
その話を聞いたリン〇は、夜遅くにパー〇を訪ね、早速見せてもらおうとする。
恥ずかしながらもアザを見せるパー〇、しかしリン〇が目を奪われたのはもちろんそこではなく…
乙女の白肌にあてられ、男女の営みは夜這いという形で始まってしまう。
昼間パー〇がアザの話をしたのは、それを期待してのことだったということを彼は知らなかった。

ほらほらリン〇
長らく溜めてたザーメン
全部出しちゃいなさい
我慢しても無駄！
私のテクに勝てる
訳ないでしょ？
X
Y
A
B
我慢する

リン〇、100年分の精をロリババアに注ぐ
ハテノ村の研究所を訪ねたリン〇。そこにいたのが若返ったプル〇だった。
100年の眠りを経て、すっかりと性欲も潜めていたが彼の金玉は
眠りの間もザーメンを作ることを忘れはいなかった。
その溜まりに溜まった性の臭いを感じ取ったプル〇は、研究と称して
彼のザーメンを抜き取ろうとする。
100年ぶりに出す射精の感覚は、リン〇を雄へと戻すには十分だった。

ど、どう？
ウツシエの使い方、わかった？
それじゃ、どんどん
撮ってみよォ？
X
Y
A
撮る
B

リン〇、ウツシエでハメ撮りにハマる。
合法ロリメガネにウツシエの使い方をレクチャーされるリン〇。
はじめはただ彼女を撮るだけだったのが、少しずつエッチな撮影会へと変わっていき、
いつしかただのハメ撮りに。
もともと昔からのセフレだった二人は長い時を経てもなお若い身体を活かして存分に
盛り合い、ハメ撮った写真はSDカードに収まらないほどだった。